

第3節 河川整備計画の目標に関する事項

(1) 計画対象区間

本計画の対象区間は大和川水系のうち曾我葛城圏域にある県管理河川とする。

(2) 計画対象期間

本計画の対象期間は、今後、概ね20年とする。

(3) 計画の目標に関する事項

①河川環境の整備と保全に関する事項

河川環境の整備と保全については以下の方針によるものとする。

i 水がきれいな川づくり

多様な生物が生息し人々が潤いを感じる清流の復活に努める。

ii 多様な生物が生息できる川づくり

人と自然の共存を念頭に、自然な川の流れを基本として多様な生物が生息・生育できるような河川環境づくりに努める。

iii 人々が水辺に親しめる川づくり

川に興味を持ち、川に近づき、川で遊び、川に親しむことができる河川環境づくりに努める。

iv 美しい河川風景づくり

地域住民の意見形成に配慮しながら、各河川の個性を活かした川づくりを進める。

②地域と一体となった川づくりに関する事項

地域の個性を活かし、地域から愛される魅力ある川とするために、以下の方針により、関係機関や地域住民と連携・協働して川づくりを進める。

i 川への関心の高揚

河川に関する様々な情報を提供し、行政と住民がそれを共有できるよう努める。

ii 住民と連携・協働した川づくり

より多くの住民の意見を反映した計画づくりを進めるため、住民参加のシステムを構築し、地域に愛される美しく豊かな公共空間の創造、さらには地域コミュニティの活性化の支援を図る。

③河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

河川の利用状況を的確に把握し、適切な維持管理を行う。また、流水の正常な機能の維持など健全な水循環の再生を図る。

④洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

戦後最大の被害をもたらした昭和57年8月災害の再度災害の発生の防止又は軽減のため、河道断面の拡大を行う洪水流下型対策にあわせて、下流の大阪府との境にある亀の瀬溪谷の流下能力に限界があること等から行う洪水貯留型対策など、大和川水系の特性に対応した総合的な治水対策を実施する。

洪水流下型対策としては、本計画期間内では概ね10年に1回程度の確率で発生する降雨の洪水を安全に流下させ、圏域内河川における洪水による災害の発生を防止又は軽減することを原則とする。

洪水貯留型対策としては、現在有している保水機能を積極的に保全又は高めるため、国・市町村及び関係部局との連携を一層深め、遊水地の設置、ため池の治水利用、雨水貯留浸透施設の設置や防災調整池等の設置指導など必要な対策を実施する。

(4) 主な河川の目標

環境、利水、治水の観点からの整備の目標を前提に、地域住民の連携・協働を促しながら各河川の特徴をふまえた整備を進める。以下に圏域内の主な河川の目標を示す。

①葛下川水系

【環境・景観】葛下川は、市街地と農地が混在した区間を流下する河川である。

川沿いの最下流部には市街地が広がり上流に向けては、農地と宅地が混在している。下流から約3kmの右岸側、上牧町下牧付近は、周辺地域の都市開発が進む中で森林が残る丘陵地であり、その保全を目的として新古阪環境保全地区に指定されている。河川の整備にあたっては各区間毎の環境や周辺景観に配慮した整備が必要である。

水質については、下流から約1km付近のだるま橋でBOD 5.2mg/l (H20年度)、約5.8km付近の新橋でBOD6.4mg/l (H20年度)となっており、全川にわたり環境基準を満たしていないため、今後も水質改善に努め、生物の生息環境の再生を図りながら、地域とともに河川美化啓発活動等を推進し河川環境の改善に努める必要がある。

【利用・利水】川沿いには王寺町役場付近の遊歩道や王寺町畠田せせらぎ公園等が整備されており、関係自治体や地域住民と連携し適切な維持管理と利用促進を図る。

また、新たに親水空間の整備を行う際は、地域住民の計画づくりと維持管理への連携・協働を基本とする。さらに、取水施設や取水量の把握に努め、継続的に水質や水量の把握に努める。

【治水】葛下川については、流域全体の治水安全度を上げるため下流より計画的に河道改修を進めてきた。

今後は、流域全体の浸水被害を軽減するために、大和川本川合流点から香芝市別所までの区間のうち、洪水を安全に流下させる能力が不足する区間について計画的に河道改修を行う。



②高田川水系

【環境・景観】高田川は、下流部は農地と宅地が混在している地域を、中流部では大和高田市の市街地を流下する河川である。

周辺には、屋敷山公園、葛城山麓公園、馬見丘陵公園、巢山古墳、竹取公園などが整備されている。また、馬見丘陵の東側にあたる下流部左岸の一带は、点在する古墳及び池沼等により形成される本県の代表的な景観となっており、その保全を目的として馬見丘陵景観保全地区に指定されている。中流部の大和高田市の大中公園付近の堤防上には、戦後植えられた桜が並木を形成しており、桜の名所としても知られている。整備にあたっては各区分毎の環境や周辺景観に配慮した整備が必要である。

水質は、下流から約1.4km付近の里合橋でBOD5.8mg/l（H20年度）、約6.5km付近の細井戸橋（現、城上宮橋）でBOD7.5mg/l（H20年度）となっており、全川にわたり環境基準を満たしていない。また、流水の見た目が悪いため、今後も水質改善に努め、生物の生息環境の再生を図りながら、地域とともに河川美化啓発活動等を推進し河川環境の改善に努める。

【利用・利水】大和高田市の大中公園を中核とした約2kmの区間において親水護岸や遊歩道等を整備している。この計画づくりにあたっては、住民懇談会等の開催等、関係自治体及び地域住民と連携して計画を実施したが、今後も引き続きこの連携協働を継続し、適切な維持管理と利用促進を図る。

また、取水施設や取水量の把握に努め、継続的に水質や水量の把握に努める。

【治水】高田川は、8支川を有する大和川の二次支川であり、流域全体の治水安全度を上げるため、曾我川合流点から大和高田市神楽付近までの区間のうち、洪水を流下させる能力が不足する区間について計画的に河道改修を行う。

支川のうち、尾張川についても、大和高田市北部の浸水被害を軽減するため、広陵町安部から大和高田市池尻付近までの区間について計画的に治水対策を進める。



③葛城川水系

【環境・景観】葛城川の上流部には山地に囲まれた良好な自然景観が残されており、これを保全するため巨勢山景観保全地区及び国見山景観保全地区に指定されている。河道は緩やかに湾曲した堀込み形状で、護岸は積ブロックが連続している。また中流部の国道165号より下流左岸側には大和高田の市街地が広がり、右岸は農地と宅地が混在している。下流部には農地が広がり宅地が点在している。整備にあたっては各区分毎の環境や周辺景観に配慮した整備が必要である。

水質は、下流から約1.0km付近の枯木橋でBOD8mg/l（H20年度）、約8.6km付近の田井橋でBOD3.4mg/l（H20年度）、約13.2km付近の桜橋でBOD1.3mg/l（H20年度）となっており、下流の枯木橋以外の地点で環境基準を満たしている。今後も地域住民とともに河川環境の改善に努める。

また、とくに水質の悪い支川の土庫川の流域においては緊急に水質改善を図る必要があるため、下水道整備や生活排水対策の推進等と総合的に連携しながら、河川においても河川浄化事業を実施する（H18年度 土庫川流末 BOD11mg/l）。

【利用・利水】御所市役所前では、県立高校跡地を活用して、公共ホールや小学校、公園等の公共施設と一体となった広大な親水空間を整備しているほか、葛城川沿いには、明日香村に至る大規模自転車道が整備されている。

葛城川や支川の柳田川の堤防上には桜並木が形成されている区間が多く、これらの区間では関係自治体や地域住民と連携し適切な維持管理を図る。

支川の安位川には、中流部の葛城市忍海に改修前の旧河道を活用した公園を整備しており、関係自治体や地域住民と連携し適切な維持管理を図る。

また、取水施設や取水量の把握に努め、継続的に水質や水量の把握に努める。

【治水】葛城川は、16の支川を有する大和川の2次支川として、流域全体の治水安全度を高めるため下流より河道改修を進めてきた。今後は、下流の曾我川合流点から柳田川合流点までの区間のうち洪水を安全に流下させる能力が不足する区間について計画的に河道改修を進める。

支川の安位川は、葛城市忍海地内の家屋連担地を横断し、葛城川に合流している河川であり、S57月8月洪水では兄川流域で浸水被害が報告されている。これらの被害を軽減するため、洪水を流下する能力が不足する区間のうち、六道橋までの区間について計画的に河道改修を行う。

支川の広瀬川の広陵町大場地内は、洪水時に排水先の葛城川の水位の方が高くなり、その影響を受けて浸水被害が発生している内水地区である。このため、洪水を流下する能力が不足する区間について計画的に河道改修を進めるとともに、内水対策については、国管理区間の計画との整合を図る必要があるため調査検討を進める。



④曾我川水系

【環境・景観】上流部の竜門山地やその周辺地域は、その良好な景観の保全を目的として巨勢山景観保全地区、多武峯・高取景観保全地区、国見山景観保全地区に指定されている。中流部の檀原市付近は新沢千塚を中心とした古墳群と貝吹山を主峰とする森林・丘陵により形成される景観が残されており、これを保全する目的で貝吹山景観保全地区に指定されている。河川の整備を行う際は地域住民の意見を聴きながら、これらの景観と調和した整備を図る。

また水質は、下流から約0.9km付近の保橋でBOD4.7mg/l（H20年度）、約2.0km付近の小柳橋でBOD2.6mg/l（H20年度）、約10.8km付近の曾我川橋でBOD2.8mg/l（H20年度）、約16.5km付近の東橋でBOD2.7mg/l（H20年度）となっており、下流の保橋以外の地点で環境基準を満たしている。今後も水質の改善に努め、生物の生息環境を保全しながら、地域とともに河川美化啓発活動等を推進し河川環境の改善に努める。

【利用・利水】川沿いの檀原市曲川町には、体育館やテニスコートなども備えた曾我川治水緑地があり、関係自治体及び地域住民と連携し、これらの適切な維持管理と利用促進を図る。さらに、取水施設や取水量の把握に努め、継続的に水質や水量の把握に努める。

【治水】曾我川は14の支川を有する大和川の1次支川として、流域の治水安全度を向上させることを目的に下流より計画的に河道改修を進めてきた。今後は檀原市及び御所市を中心とする地域の浸水被害軽減のため、洪水を流下する能力が不足する区間のうち、ハブ井堰までの区間について下流より計画的に河道改修を進めていく。

支川の小金打川の大和高田市松塚地内は、洪水時に曾我川の水位の方が高くなり、その影響を受けて浸水被害が発生する内水地区である。そのため、下流より河道改修を実施するとともに、排水先である曾我川の河床を掘削し、浸水被害の軽減を図る。これによってもなお解消されない内水湛水については、国管理区間の計画と整合を図りながら調査検討を進める。

